

# 新しいことはいつでも楽しい



## 藤本和士

関西大学化学生命工学部化学・物質工学科  
[564-8680] 吹田市山手町3-3-35  
准教授, 博士(工学).  
専門は計算化学, 高分子破壊.  
k-fuji@kansai-u.ac.jp  
<https://wps.itc.kansai-u.ac.jp/tcc>

この原稿の締切日が私の誕生日で、気づけば39歳になった。この歳になると、それなりにいろいろな経験をjするjため、年々刺激的で楽しいことが減っているように感じる。初めての海外渡航はかなり緊張したが、今では国内旅行の延長くらいの気分になった。ドラマも音楽も最新のものは追わなくなり、自分の子供時代に流行っていたものをよく見るようになった。NetflixやHuluなどのおかげで簡単に昔のコンテンツにアクセスできるのも、この状況に拍車をかけたような気がする。歳をとるということはこういうことなのかなと、半ば諦めた気持ちをもつようになっていた。そんな中、最近大きな変化が仕事と私事それぞれにあった。

2022年の春に娘(第一子)が生まれた。これまでの生活が一変し、初めての経験ばかりである。子供の成長・変化が大きいことに日々驚かされる。去年はミルクを飲んでベッドで寝てるだけであったのに、最近では(言葉はまだ話せないが)意思疎通がとれるようになった。感情の表現が増えることも面白い。生まれた頃は不快と満足の二つしか表現できていなかったように思う。最近、楽しい、嬉しい、やりたいなどポジティブな感情に加えて、怒りや嫉妬などネガティブな感情も芽生えてきたようだ。また、公園やウォーターランドなど、通常行かない場所に行くようになった。自分のアルバムを見返すと、小さい頃にそのような施設に行っているが、もちろん記憶にはない。滑り台やブランコ、プールがこんなに楽しいものとは思わず、正直驚いた。

2023年の春に関西大学 化学生命工学部化学・物質工学科へ准教授として着任した。大阪府吹田市にある35万m<sup>2</sup>の広大なキャンパスが私の新しい職場である。春は桜、梅雨の時期は紫陽花とキャンパス内は常に花々や木々に包まれており非常に美しい。銀杏の木も多く見られるので、紅葉の時期を今から楽しみにしている。

一つ目の大きな変化は座学を教えるようになったことである。昨年度までは名古屋大学大学院工学研究科応用物質化学専攻で助教として研究・教育を行っていた。演習と学生実験が助教の担当であったので、座学の教育は初めてである。教科書を選ぶために多くの書籍

をあたり、授業ノートを作製した。この作業は非常に有意義であった。担当科目はすでによく知っている科目ではあるが、さまざまな先生の書籍にふれることで、既知の内容が新しいことのように感じられ、理解がより深くなった。目から鱗とはまさにこのことであろう。二つ目の大きな変化は、研究室の主催者(PI)になったことである。研究室には3名の4回生が配属され、毎日研究に励んでいる。これまで複数のPIの先生の下で勉強させていただいた経験を基に、私なりの進め方を実践させていただいており、おおむね順調な滑り出しである。

このように最近新しいことばかりで非常に刺激的な日を送っている。ただ、実は上に書いたような綺麗で良いことばかりでなく、正直な感想としては「疲れた」が本音である。子育て経験のある諸先輩方は百も承知であると思うが、思うようにいかないのが子育てである。4~6月は保育園から娘が風邪をもらってきて、妻も私もずっと体調不良であった。授業準備も想像以上に時間がとられるし、授業や研究室運営も多々ミスが見られ反省が多い半年であった。振り返ると7割以上は失敗だったのではないかと思えてくる。しかし不思議なことに、だからと言って辞めたいという気持ちには一向にならなかった。どうも、楽しいこと(成功)は苦しみ(失敗)とセットで、苦しみを超える興奮を覚えているときに楽しいと思うようだ。もしかしたら挑戦による苦しみ自体が楽しみそのものなのかもしれない。

学生さんなど若い方はパフォーマンスを非常に重視する傾向にある。かけたエネルギー分だけ、何かの形で必ず回収したいと考えているようだ。この考え自体は正しく大事である。ただ一点だけ覚えておいて欲しいのは、新しい挑戦の対価はいつ回収できるかわからないという点である。何かに挑戦すると多くの失敗や苦しみを味わうことで不安に思い、労力に見合わないので辞めようと思うだろう。しかし、挑戦的作業の苦しみは楽しさそのものなので、自分を信じて挑戦を続けてほしいと心から願っている。こんな説教をするから歳をとったんだと読者に思われるかなと心配しながら、ここで筆を擱きたいと思う。